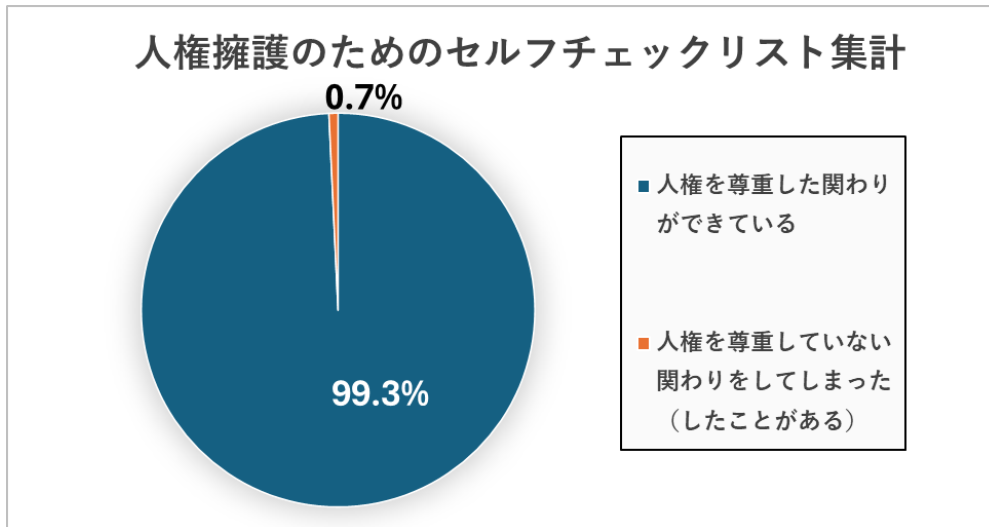


**三本木保育所** 人権擁護のためのセルフチェックリストの実施結果（令和7年6月実施）  
全国保育士会が作成した「保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト  
～「子どもを尊重する保育」のために～」を使用しました。



全設問に対して99.3%が望ましい対応をしていることが分かりました。0.7%の望ましくない対応は主に次の3項目に見られました。

お迎えに来た保護者に「A君は、今日はケンカをしてお友だちを泣かせてしまいました」と他の保護者にも聞こえるように言う。

上記の項目につきましては、保護者に伝える時の言葉の選び方や場所、声の大きさは配慮が必要であることを確認しました。どうしても保護者に伝えなければならない場合は、場所を移動するなど、個別に対応を行い、また伝える時は、どちらの子どもにも理由があったこと、その際の保育者の環境設定や対応などの反省を踏まえ、子どもの気持ちに寄り添った伝え方を行うことを話し合いました。

子どもの人数のチェックをする際、子どもの頭を手ではたくようにして人数を数える。

上記の項目につきましては、手ではたくように数えることはしていないことを全体で確認しました。頭を手ではたくことはしていませんが、頭を触ってしまうことがあるので気をつけたいという声もありました。本人はそのつもりはなくても、第三者や子どもは叩かれたと思うかもしれないことをしっかりと意識することが大切であると話し合い、人数を確認する時は体に触れずに顔を見て数えること、子どもが動いて人数確認が難しい時には、「ちょっと触るね。」と声をかけて、肩や手に優しく触れるなど、子どもが不快に感じない方法を考えていくことを確認しました。

「お休みの日にどこにいったかお話して」との問いかけについて、クラス子どもたち『全員』に発表してもらう。

上記の項目につきましては、お休みの日に出かけた前提ではなく、何をしたかを聞くことはあるという声もありました。全員の前で発表したり、経験したことなどを話す場を大切にしたいという思いもあるため、何をねらいに発表の場を設けるのかを考え、その際のテーマなどは上記のような限定の内容ではなく、配慮が必要であることを確認しました。また、子どもと自然に話をする中で、休みの日の楽しかったことを一緒に共有できる会話を大切にしていけることを確認しました。